

BLUE & GREEN

世界選手権特集

2022
SEPTEMBER NO.3



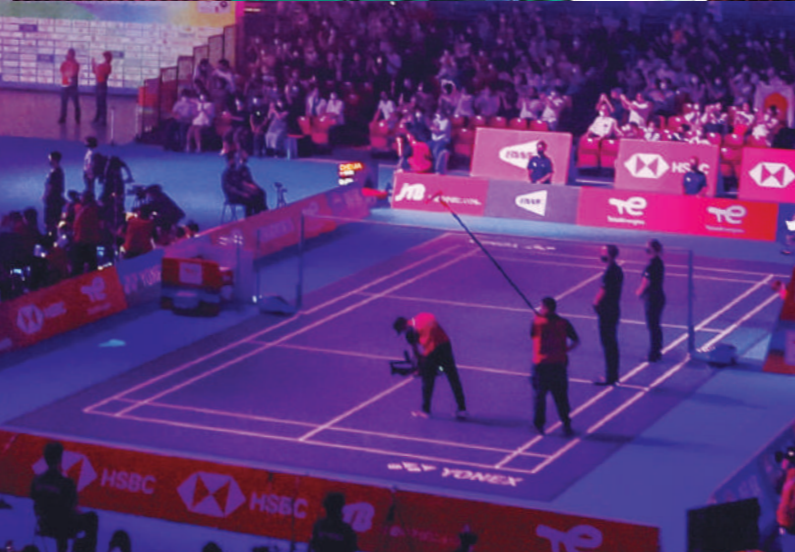
30,000人が沸いた!

日本初開催! 世界バドミントン選手権



far beyond ordinary

感動をありがとう。



Total Energies BWF World Championships 2022

世界バドミントン選手権大会2022
2022年8月22日-28日
場所:東京体育館
出場国:47ヶ国
出場選手:約400名
観客動員数:約30,000名

絶好調のアクセルセンが、 全試合ストレート勝ちで、自身2度目の栄冠。

男子シングルスは、世界ランキング1位のビクター・アクセルセン(デンマーク)が、全試合ストレート勝ちの圧倒的な強さで、5年ぶりに栄冠を手にした。決勝では、20歳の新鋭クンラヴァット・ヴィディットサルン(タイ)に対し、攻守に安定したプレーで、経験の差を見せつけ、「競り合いとなった第2ゲームで、もう一段階ギアを上げられたことが勝因」と、2度目の世界選手権制覇に胸を張った。そして波乱の男子ダブルス。決勝では、昨夏注目を浴びたエーロン・チア&ソー・ウォイイ(マレーシア)が、相手にスマッシュを打たせる作戦で、ベテランのヘンドラ・セティアワン&モハマド・アッサン(インドネシア)の体力を削って、長いラリーから主導権を握ると、最後は168センチと小柄なチアがドロップを決めて頂点へたどり着いた。



男子シングルス優勝
ビクター・アクセルセン



「前回優勝したときは
ダークホース的な存在だったが、
今回はプレッシャーも大きかった。
それと戦って、コントロールできた
ことを誇りに思う」と、語った。



男子シングルス準優勝
クンラヴァット・ヴィディットサルン



Men's Singles

銀メダルのクンラヴァットは、
準々決勝で前年王者の
ロー・ケンユー(シンガポール)を
ファイナルゲームの末に破るなど
して、初の決勝進出。
男子シングルス界のホープに、
「決勝進出おめでとう。これからが
楽しみな選手」と王者アクセルセンは
祝福とエールを送った。

Men's Doubles

マレーシアペアが世界選手権で優勝するのは全種目を通して初。マレーシアの英雄、リー・チョンウェイも成し遂げられなかった頂にたどり着いた。

男子ダブルス優勝
エーロン・チア&ソー・ウォイイ



世界1位のチェン・チンチェン&ジア・イーファンが、接戦を制し、大会2連覇。

女子ダブルスは、世界ランキング1位のチェン・チンチェン&ジア・イーファン(中国)が3度目の世界女王の座に就いた。「今回はプレッシャーも大きかった。お互いに3位でもいいよねと言って臨んだ大会でしたが、いざコートに立ったら、やはり勝ちたいし、緊張した」と二人。来夏の大一番に向け、中国、韓国、そして日本による女子ダブルスの覇権争いはさらに面白くなりそうだ。混合ダブルスは、5月のアジア選手権から負けなしで6大会連続優勝のジェン・スーウェイ&ファン・ヤーチョン(中国)の勢いが止まらない。決勝の舞台で対峙した日本の渡辺勇大&東野有紗は、「現状では確実に差がある」と脱帽せざるを得なかった。世界選手権では2018年、19年と2連覇しているが、今大会での優勝には格別に喜びを感じているという。「昨夏の大一番、決勝で負けたのは本当につらかった。でも、チームスタッフに支えられ前を向けるようになった」とジェン・スーウェイは明かしている。

Mixed Doubles



Women's Singles



Women's Doubles



日本選手初!! 山口茜が2連覇を達成。

女子シングルスは、第1シードで前大会優勝の山口茜が、準々決勝でキャロリーナ・マリーン(スペイン)、準決勝では20歳のアン・セヨン(韓国)をそれぞれストレートで退けて決勝へ進出。

その決勝では、昨夏の一番を勝利したチェン・ユーフェイ(中国)と対戦した。

第1ゲームを山口、第2ゲームをチェン・ユーフェイが奪い、勝負はファイナルゲームへともつれたが、

そのファイナルゲームの序盤から素晴らしいフットワークを見せた山口が得点を重ね、勝利をものにした。

「1球1球集中できた」と話した山口に対し、チェン・ユーフェイは「第3ゲームの序盤でうまくプレーできなかった」と試合後。

バドミントン最強国の中国だが、実は2011年を最後に、世界選手権では女子シングルのタイトルを獲得できていない。

チェン・ユーフェイにとっては、それも大きなプレッシャーになったという。

「11年の呪縛を解きたいと思ったけれど、精神面でうまくいかなかった。それは今後の自分の課題だと思う」と、次なるリベンジを誓っていた。

Japan National Team



日本の観客の前で、大健闘の日本代表。

日本代表は渡辺/東野が決勝で中国ペアに敗れ、2大会連続の銀メダル。

しかし、世界選手権では3大会連続のメダル獲得で、日本の混合ダブルスの新たな歴史を刻み続けている。

女子ダブルスでは、2018年と19年に世界選手権を制している松本麻佑&永原和可那が、安定した実力を発揮してベスト4入り。

世界ランキング1位のペアに敗れ、決勝進出はならなかった。2大会連続銅メダルにも「優勝をめざしてきたので悔しい」と笑顔はなかった。

昨夏の世代交代後、急速に力をつけてきた男子ダブルスの保木卓朗&小林優吾、女子ダブルスの志田千陽&松山奈未は、ベスト8。

前回優勝の保木/小林は連覇を期待されていたが、悔しい敗退となった。また志田/松山は、「この経験を生かして、もっと強くなりたい」と雪辱を誓った。

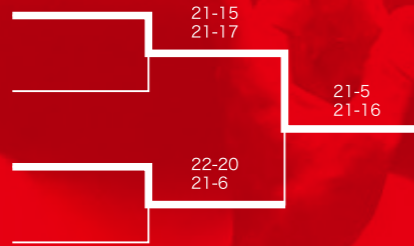
男子シングルス結果

ビクター・アクセルセン
デンマーク

チョウ・ティエンチェ
チャイニーズタイペイ

クンラヴァット・ヴィディットサルン
タイ

ツアオ・ジュンペン
中国



ASTROX 100 ZZ
BG80

女子シングルス結果

山口 茜
日本

アン・セヨン
韓国

チェン・ユーフエイ
中国

タイ・ツーイン
チャイニーズタイペイ



ASTROX 100 ZZ
EXBOLT 63

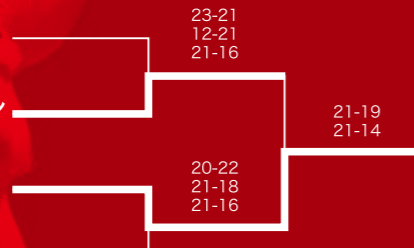
男子ダブルス結果

ファジャール・アルフィアン&ムハマド・リアン・アルディアント
インドネシア

モハマド・アッサン&ヘンドラ・セティアワン
インドネシア

ソー・ウォイ&エロン・チア
マレーシア

サツウィサイラジ・ランキレディ&チャラク・シェッティ
インド



ASTROX 88D PRO 強チタン ARCSABER 11 PRO 強チタン

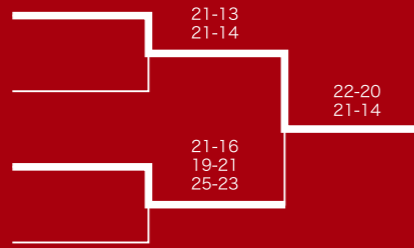
女子ダブルス結果

チェン・チンチェン&ジア・イーファン
中国

松本麻佑&永原和可那
日本

キム・ソヨン&コン・ヒヨン
韓国

ブッティタ・スパジラクル&サブシリー・タエラッタナチャイ
タイ



ASTROX 100 ZZ AEROBITE NANOFLARE 800 BG80

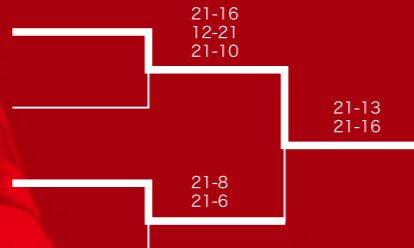
混合ダブルス結果

ジェン・スーウェイ&ファン・ヤーチョン
中国

ワン・イーリュウ&ファン・ドンピン
中国

渡辺勇大&東野有紗
日本

マーク・ラムスフス&イザベル・ロハウ
ドイツ



ASTROX 77 BG66 ULTIMAX DUORA 10 LT BG80

(((選手たちのオフコートショット)))



記念Tシャツは完売

ビクター・アクセルセン選手



みんなで浅草でパシャリ

キャロリーナ・マリン選手/山口茜選手
イ・ソヒ選手/シン・スンチャン選手



記念Tシャツがお気に入り

キャロリーナ・マリン選手



熊本城でもパシャリ

松山奈未選手/イ・ソヒ選手/キャロリーナ・マリン選手
シン・スンチャン選手/山口茜選手/志田千陽選手



イルミネーションで記念撮影

アン・セヨン選手



日本食は選手からも好評

ケビン・S・スカムルヨ選手/マルクス・F・ギデオン選手
ビクター・アクセルセン選手



新潟工場見学はおどろきの連続

松本麻佑選手/永原和可那選手/ビクター・アクセルセン選手
ラチャノック・イントanon選手/ケビン・S・スカムルヨ選手/マルクス・F・ギデオン選手



東京工場見学では勉強になりました

山口茜選手/キャロリーナ・マリン選手
シン・スンチャン選手/イ・ソヒ選手



神社で和をたしなみました

マルクス・F・ギデオン選手



どっちが本物かわかりません

アン・セヨン選手

感謝のタベ

世界選手権の興奮をそのまま会場に。
リー・チョンウェイ、ピーター・ゲードがサプライズで登場！

8月27日、都内ホテルで世界選手権出場のチームヨネックス選手約20名によるファンとの交流を深めるイベント「感謝のタベ」が開催されました。招待された70名のジュニア達は、憧れの選手と一緒に写真撮影やサイン入りのグッズ抽選会などで交流を楽しみ、日本チームはリモート参加となりましたが、保木/小林、永原/松本、桃田選手の登場にジュニア達は大喜び。また、最後にサプライズゲストでレジェンドのリー・チョンウェイ、ピーター・ゲード氏が登場すると会場の盛り上がりは最高潮に。「大勢の選手を近くで見られて感動した」「夢のような時間でした。また来たいです」と、参加者全員が選手との思い出を胸に刻む1日となりました。



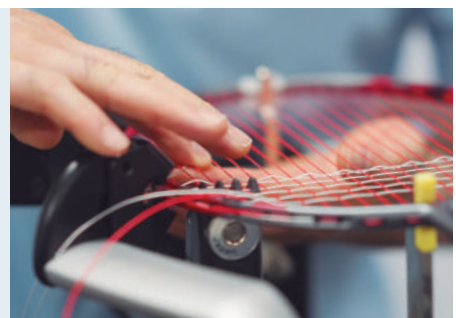
たくさんのバドミントンファンや子供たちが詰めかけました。



レジェンド2人の登場に、ファンは歓喜。



桃田選手がリモート出演すると、会場は大盛り上がり。



張り上げ本数は1,000本超え。 大会を支えた、高品質な技。ヨネックスストリングングチーム。

世界のトップランカーが集結するこの大会を高い技術で支えたのが、世界各国総勢1,500名のメンバーから構成されるヨネックスストリングングチーム。今回はイギリス、韓国、中国、日本からトップストリンガーを招集。チームをまとめたマーク・ローレンスさんは「張りが安定していれば、選手はプレーに集中できる。常に選手に気持ち良く打ってもらえるように、レベルの高いサービスを心掛けました」とコメント。経験に裏打ちされた確かな技術と日本製ストリングマシンを用いることで、選手より高い評価をいただいています。

世界のトップ選手がジュニアクリニック ヨネックススポーツチャレンジ全国で開催!!

スポーツを通じて笑顔をお届けし、明日の健康を目指す「ヨネックススポーツチャレンジ」が世界選手権優勝のピクサー・アクセルセン、山口茜選手など、世界トップ選手を招いて9月5日新潟、9月7日札幌、熊本で開催。合わせて、約150名の小・中学生が参加し、選手とラリーやゲームを楽しみました。

